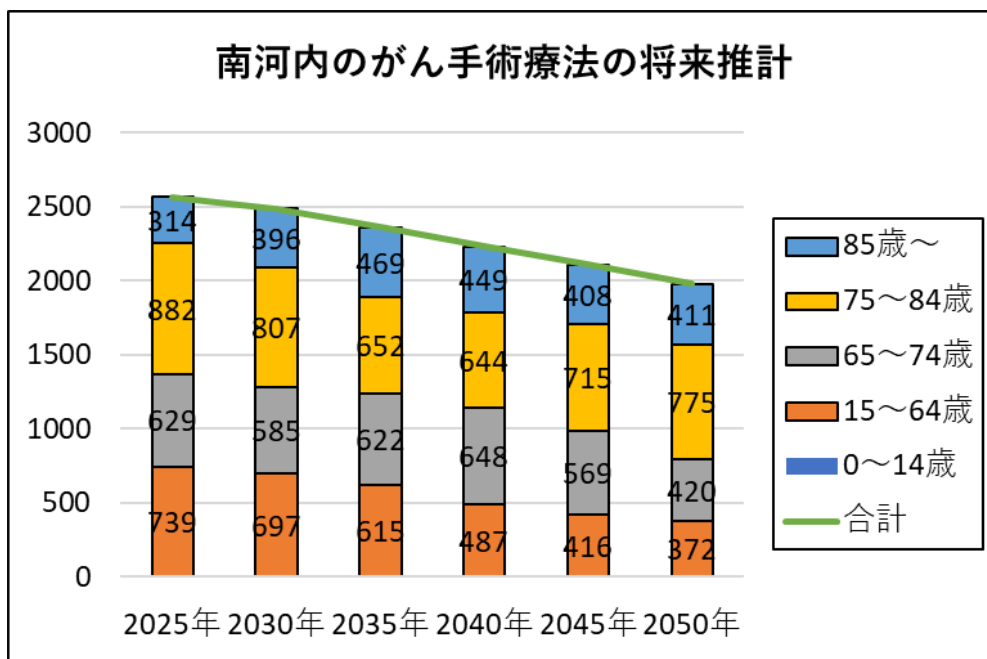


#### 初回治療としての三大療法の将来実施割合

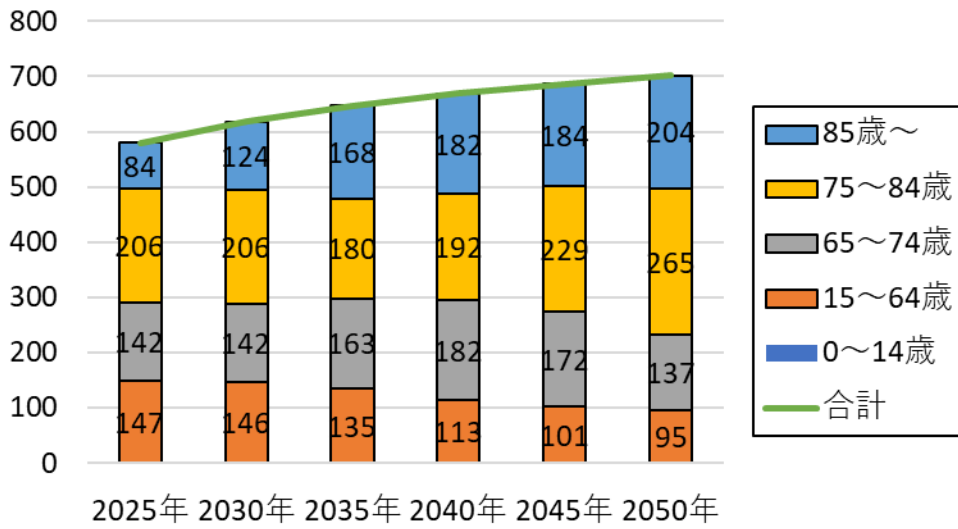
院内がん登録における症例区分 20 および 30 の年齢階級別の三大治療の実施割合の推移（2016-23年）から線形予測した将来の三大治療実施割合

毎年院内がん登録を報告している 696 施設の集計

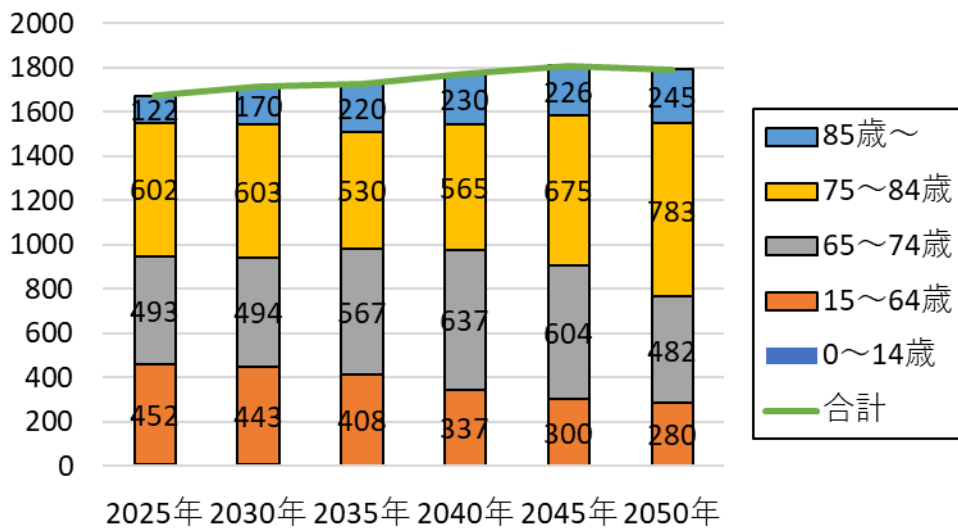
症例区分 20：自施設診断・自施設初回治療開始症例、症例区分 30：他施設診断・自施設初回治療開始症例



### 南河内のがん放射線治療の将来推計



### 南河内のがん薬物治療の将来推計



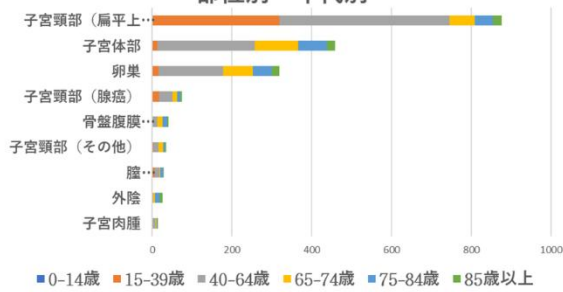
2016年～2024年実績  
 子宮頸部・子宮体部・子宮肉腫・卵巣・外陰・膣・骨盤(腹膜、卵管)

\*症例区分80名除く

# 婦人科系がん疾患調査

大阪南医療センター  
 大阪はびきの医療センター  
 PL病院  
 富田林病院  
 城山病院  
 松原徳洲会病院

部位別・年代別

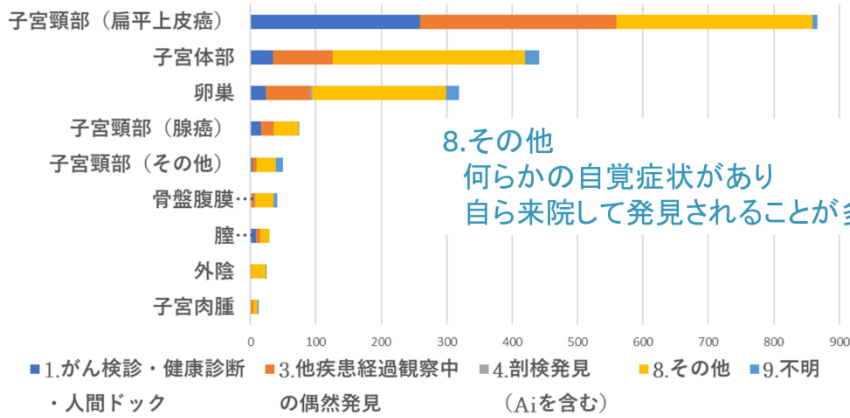


- ・子宮頸がん(扁平上皮癌)
- ・子宮体癌
- ・各部位40～64歳が最も多い



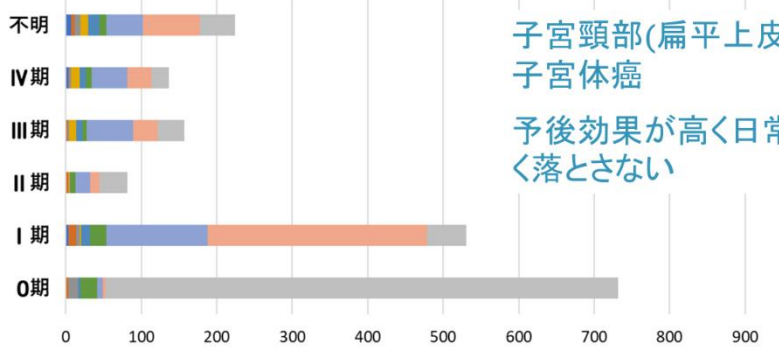
約60万人

発見経緯



8.その他  
 何らかの自覚症状があり  
 自ら来院して発見されることが多い

### 部位別・cStage別



子宮頸部(扁平上皮癌) 0期  
子宮体癌 I期が多い  
予後効果が高く日常生活の質を大きく落とさない

- 子宮肉腫
- 外陰
- 膣・妊娠性絨毛
- 骨盤腹膜・腹膜・卵管
- 子宮頸部(その他)
- 子宮頸部(腺癌)
- 卵巣
- 子宮体部
- 子宮頸部(扁平上皮癌)